

施設から不明」を想定



通行人に男性の特徴を話して手掛かりを探す施設職員たち

室蘭「みたらの杜」周辺 搜索訓練

施設利用者が行方不明になったのを想定して、社会福祉法人幸清会・大滝福祉会（大久保幸積理事長）は28日、室蘭市絵鞆町2の特別養護老人ホームみたらの杜の周辺でSOSネットワーク搜索模擬訓練を実施した。

同法人は高齢者などが行方不明になった場合の対処方法や手順を把握するため昨年

訓練に取り組んでいる。この日は、最初座学として高齢者が歩く平均速度や冬期の低体温症、搜索の方法などを学んだ後に訓練に入った。

訓練は「50代後半の男性が行方不明になった」という想定で始まった。顔写真入りのメモと地図を手に持った約40人の職員らは11班に分かれて施設内を搜索した後、屋外に出て男性を捜した。

搜索範囲は絵鞆、祝津など施設から半径1

・2キロ。通りはアップダウンの激しい坂道が続く。職員は「地域が広いので大変」と道行く人に男性の手掛かりを尋ねていた。最終的には40分後に約1キロ離れた公園で男性を発見した。

担当したデイサービスセンターみたらの杜の花釜康一所長は「みんなで協力して、それぞれ各自の役割と責任を持って一人の命を大切にしていきたい」と話していた。

（佐藤重伸）